

犯罪学シラバス構想

グレード	担当者	科目名	概要
グレード 100-200	大谷 彬矩	法学基礎演習	高校と大学とは、学び方に大きな違いがある。大学入学以前の学校教育では、これまで明らかになった知識を吸収し、自分のものとして吸収していくことが重視されている。一方、大学での学びは、未解決の問題や、これまで想定もされていなかったような問題にアプローチするための基礎トレーニングという性質をもっている。本演習では、法学を題材として、1年次生を対象に、大学での新しい学び方を身につけるための基礎的なトレーニングを行う。
	西本 成文	研究と倫理	科学を抜きにして人類の歴史は語れない。しかし、ますます複雑化する社会においてもはや科学は「個人個人の純粋な知的営為」のレベルに留まることを許されない。「知的好奇心のためなら何をやっても良い」という時代はもはや過去のものである。さまざまな領域、局面において、一定のルール・制約がかかされている。「なぜルールが必要なのか?」、「研究はどこまで許されるのか?」この授業では、法と倫理という側面からこの問題をとりあげる。
グレード 300	暮井 真絵子	社会と法	現代社会に生起する各種犯罪を、社会が抱える問題を踏まえて取り扱います。そして、罪を犯した人を排除せず、その人たちが再び罪を犯さないようにするためにはどうすれば良いかを考えます。これらを通じて、犯罪や非行という社会問題を立体的に観察し、その対策を検討することを目的とします。
	暮井 真絵子	刑事政策A	刑事政策学のうち、総論にあたる部分を学ぶ。具体的には、社会的・心理学的な知見も踏まえた犯罪現員論、刑事手続および行刑の流れ、刑罰論、刑罰の種類、刑務所内処遇、被収容者の権利・義務、更生保護（社会内処遇）などを学ぶ。
	暮井 真絵子	刑事政策B	刑事政策学のうち、各論にあたる部分を学ぶ。具体的には、現代社会に生起する各種犯罪を、社会がかかえる問題を踏まえて取り扱う（具体的内容は、下記「授業計画」を参照）。そして、罪を犯した人を排除せず、その人たちが再び罪を犯さないようにするためにはどうすれば良いかを考える。これらを通じて、犯罪や非行という社会問題を立体的に観察し、その対策を検討することを目的とする。
	丸山 泰弘	刑事政策（各論）	「構成要件に該当する違法かつ有責な行為」にあたる行為だけが「犯罪」であり、「犯罪」に対してのみ「刑罰」が科される。 しかし、行為責任を前提とした日本の罪と罰のあり方では何の解決にもならない事件が存在する。いわゆる刑法や刑事訴訟法とは異なり「刑事政策」は「人」そのものを見つめ直す学問でもある。いわゆる伝統的な刑事政策の授業は総論的な検討が多いなか、本講義では各種犯罪に注目した刑事政策の各論に光を充てる。
	David Brewster	犯罪、社会およびグローバル化 Crime, Society and Globalization	この科目では、犯罪と社会との関係、またグローバル化した現代の状況下でどのように犯罪が変化してきたのかを探る。前半では学際的な視点を用いて、日本の比較的低い犯罪率、ヤクザ、女性に対する暴力といった現代日本社会における犯罪問題について学んで議論していく。後半では、人身取引、テロリズムおよび「スマートシティ」における犯罪といった様々なトピックを通じて、グローバル化がどのように犯罪およびその統制を変化も革新もしてきたかを探る。 This course explores the relationship between crime and society, as well as how crime has changed under contemporary globalized conditions. In the first semester, we will use an interdisciplinary lens to learn about and discuss crime issues in contemporary Japanese society, such as Japan's comparatively low levels of crime, the 'yakuza', and violence against women. In the second semester, students will explore how globalization has contributed towards changes and innovation in crime and its control through discussing topics such as human trafficking, terrorism, and crime in the 'smart city'.
	David Brewster	国際的な視座による違法薬物統制 Illegal Drugs Control in International Perspective	この科目では、世界中の違法薬物の使用、市場、および統制の現状を探る。禁止を初め、罰則解除、非犯罪化、ハーム・リダクション、医療化、合法化に至るまで、薬物への様々な対応を批判的に検討し、議論していく。最後に、薬物政策の将来についての議論をしていく。 This course will explore the current state of illegal drug use, markets and control across the world. We will critically consider and debate different approaches to drug control, from prohibition, to depenalization, decriminalization, harm reduction, medicalization and legalization. The course will conclude with a discussion about the future of drug policy.
	David Brewster	犯罪学研究における理論と方法 Theory and Method in Criminological Research	この科目では、理論と研究方法を結びつけ、犯罪学的研究を行うために必要なスキルと知識を提供することを目的とする。主な研究デザイン（実験的デザイン、横断的デザイン、縦断的デザイン、ケーススタディデザイン、および比較的設計）とそれらデザインの模範的な研究を探る。 This course aims to connect theory and method, and provide students with the necessary skills and knowledge to conduct criminological research. We will explore the main research designs (experimental designs, cross-sectional designs, longitudinal designs, case study designs, and comparative designs) and exemplary studies.
上田 光明	犯罪学理論入門	犯罪学は、①犯罪はなぜ起きるのか、②どのような行為が犯罪とされる（べき）か、③どのようにしたら犯罪は防ぐ（再犯防止も含む）ことができるのか、を考える総合的・学際的学問です。この犯罪学の中核をなす犯罪学理論は①を中心的に扱う研究分野ですが、②や③も同時に考えておく必要があります。逆に言うと、②や③も、①の考察なしでは理念のない空虚なものとなってしまいます。この授業では、このような犯罪学理論の展開を、成立期から現代にまでさかのぼる形で講義し、どのような主張がこれまでなされてきたかを、背景や前提仮説を用いながらわかりやすく整理し、講義します。	

グレード	担当者	科目名	概要
グレード 400-500	鈴木 政広	修復・治療的司法	20世紀終盤になって伝統的刑事司法に対して、被害者の不在や刑罰の実効性のなさといった批判が叫ばれ始めた。その流れの中で登場した新たな司法の形である代表格が修復的司法（Restorative Justice）・治療的司法（Therapeutic Justice）である。本講義ではこれら修復的・治療的司法が何であるのか（例えば従来型の刑事司法との違いなど）、そして従来型の司法が抱えていた問題に対処するのに十分に革新的なアプローチとなっているのかを批判的に問う。
	谷家 優子	性科学	「人間の性」の多様性についての理解は徐々に得られているように見える。しかし、自分自身がどのような「性」に関する価値観や固定観念を持ち、どのようなプロセスを経てそれらを獲得したのかについて深く考えた人は少ないのではないだろうか。さらに、自分自身の価値観や固定観念が他者のそれらとどの程度一致していて、違っているのかということについても確かめたことがある人は、さらに少ないと想像される。 心理臨床場面では、このように自己と他者との違いに気づかず、すれ違いのままコミュニケーションをしていたり、あるいは「暗黙の了解」をしていたり、自動思考のまま突っ走ったりしてトラブルになっているケースが散見される。当事者たちはそのトラブルの原因に気づいていないため、さらに問題が悪化・複雑化して悪循環になり、時にはとんでもない悲劇を生むケースもある。もしかしたら、家庭内や職場内、学校内の身近な人間関係ほどそのような悪循環が起こりがちなかもしれない。性暴力犯罪は当然のことながら、それ以外の犯罪の背景因、あるいは依存症の生きづらさの背景に見え隠れしている「性」について多様な側面から考える。
	暮井 真絵子	更生保護	更生保護の意義や制度の概要を学び、社会福祉士等の更生保護制度を担う人たちが、罪を犯した人が非行をした人の立ち直りを支援するためにどのような活動を行なっているのか、手続に沿って見ていく。社会福祉士国家試験問題の検討も行う予定である。
	牧野 雅子	犯罪とジェンダー	単に性差・性別ということのみならず、男らしさ／女らしさといったイメージ、男女に割りあてられた役割や社会規範を、広くジェンダーという。構成員の男女比の偏りや役割の違い等を問題にするジェンダーの視点は、社会科学において欠かせないものとなっており、犯罪をめぐる議論も例外ではない。強姦神話に代表される、ジェンダーに関する偏見や差別（ジェンダー・バイアス）は、司法の中にも存在し当事者に男女非対称に働き、バイアスを再生産する。犯罪に関する学問の法学、犯罪学、被害者学にも、ジェンダー・バイアスの存在が指摘されて久しい。 本講義では、犯罪に関する問題をジェンダーに着目して考えるときにも、犯罪をめぐる議論を通してジェンダーの視点を獲得することを目指す。
	牧野 雅子	被害者学	日本においては、1990年代以降、犯罪被害者の保護が叫ばれ、支援策や法が整備されてきている。それ以前は、犯罪被害者は、保護すべき対象と見なされておらず、刑事手続きの蚊帳の外に置かれていた。被害者学も、犯罪原因を被害者に求めてその誘因を探る学問であり、差別や偏見を伴ったものであった。 犯罪被害者がおかれてきた状況や、被害者を研究の対象とする被害者学の歴史を批判的に検討することで、支援や法はどうあるべきかについて考える。
	石塚 伸一	犯罪心理学～司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開～	心理学は、人間の心と行動に科学的な手法によって研究する学問です。そのアプローチには、行動や認知を客観的に観察し、記述しようとする立場と主観的・内面的な体験や経験を基礎にするものがあります。また、研究方法は「質的研究」と「量的研究」に区別されます。 心理学者は、歴史的にも、現実的にも、犯罪現象の説明や犯罪の処理の様々な局面に登場します。刑事司法のさまざまな局面でどのような形で実践されているかを観察したいと思います。
	丸山 泰弘	死刑論	古くて新しい議論として今なお決着を見ない「死刑」についての検討を行う。従来から、廃止論者は刑事政策的論点や憲法上の論点、冤罪などを理由に廃止を訴え、賛成論者は死刑による抑止や国民の多くが死刑に賛成であることを理由に死刑の存置を訴えている。しかし、これらはいずれもそれぞれの思い込みや理想によって話されていることも多い。 そこで、本講義では、それぞれの根拠にエビデンスの観点から見直し、また死刑を取り巻く世界の議論を踏まえて、死刑について根本から学び直すことを目的とする。
	札埜 和男	文学模擬裁判演習	中等教育の国語科の代表的な小説教材について専門的な読み及び解説を施す。それらをモチーフにした模擬裁判のシナリオをもとに自分たちで協議し、変更していく。最終的には自分たちの言葉で創り上げたシナリオを模擬裁判として演じ、作品への読解を深め、法に止まらず矛盾した人間存在や不合理な社会についての眼差しを養う。今回は森鷗外『高瀬舟』を題材とする（他にも芥川龍之介『羅生門』、夏目漱石『こころ』、志賀直哉『范の犯罪』等がある）。
	井上 善幸	宗教と矯正	日本の宗教教誨の歴史について資料研究を、現状については教諭師へのインタビューで研究してきた。こうした情報を踏まえていくつかの面から12回のカリキュラム素案を作成した。 宗教教誨や保護活動のさまざまな言説を分析し、具体的な活動実態について検討する。 実際活動自体が変遷しており、理念の諸相も含めて明らかにしていきたい。

グレード	担当者	科目名	概要
グレード 400-500	掛川 直之	地域を基盤としたソーシャルワーク	地域を基盤としたソーシャルワークは、ケースワークやグループワークと区別されるものではなく、それらを含むさまざまな直接的・間接的援助技術と関連しながら展開されるものである。本授業では、ジェネラリストソーシャルワークの視点に基づき、地域を基盤としたソーシャルワークについて学ぶことを目的とする。そのうえで、人と人のつながりの基調となる「地域」について、現状分析を踏まえながら、地域とそこでの生活における課題や地域の持つ意味を探究する。
	掛川 直之	司法福祉学	罪を犯した人びとに対してどのように刑が執行され、その後、どのように地域に戻ってくるのか。また、出所者と呼ばれる人びとが、どのような問題を抱えているのか。かれらが地域社会において生活するために必要と思われる福祉的な支援と、その担い手や機関についての理解を深める。
	掛川 直之	貧困・社会的排除論	近年、貧困問題はすぐそこにあるものへと変わった。また、世界に未曾有の危機をもたらしたコロナ禍は、新たな貧困・社会的排除をもたらそうとしている。本授業では、「犯罪」「ホームレス」「生活困窮」といった具体的な現象を通して、この貧困・社会的排除という状態について説明する。そのうえで、すべての人びとが健康で文化的な生活をおくる共生社会のあり方について、受講生のみならず自身も考え、その解決に向けてわたしたちにできることについて議論し、報告してもらう。
	相良 翔	犯罪予防と福祉——社会学的視点から考える	近年の犯罪予防の領域における重要なトピックを抑えつつ、重要な理論・思想や批判的思考を学び、今後の犯罪と福祉の関係のあり方について共に考察していきます。
	中根 真	保育と人権	この授業は、子どもの世界への入口の1つとして「保育と人権」を設定し、学生各自がめざす保育者としての人権感覚を高めていくことを目的とする。
	山田 早紀	供述分析	供述分析は、司法制度、とくに刑事司法制度の中で取り扱われる被疑者・被告人、被害者、目撃者等の供述に関するさまざまな問題について心理学的に検討を行う分析方法です。分析対象となる供述が供述者の実体験に基づくものであるか、その供述が語られた起源を検証します。供述分析にはいくつかの手法がありますので、それぞれの理論や特徴、活用事例を紹介します。また、実際に供述分析の作業も行ってもらいます。

※ 本サイトはトライアルのために第一次案として公開するものです。
無断転載等、著作権を侵害する行為はお控えください。